ＳＮＳで脚光を浴びる「父母ケ浜」

何がきっかけで人気に火が付くかは分からないものだ。遠浅の砂浜に沈む夕日が絶景だと、一部の写真愛好家の間でしか知られていなかった香川県三豊市の父母ケ浜（ちちぶがはま）も、会員制交流サイト（ＳＮＳ）で「日本のウユニ」「天空の鏡」と話題になり、ここ数年で「インスタ映え」する人気スポットになった。

市の外部組織「三豊市観光交流局」によると、2016年に5500人にすぎなかった年間来訪者も18年に26万人、19年には44万人超えを記録。コロナ禍で１カ月間の立ち入り禁止期間があった20年も41万6800人を数え、香川を代表する観光地の一つに躍り出た。

きっかけは父母ケ浜の映り込みを捉えた１枚の写真だった。観光交流局の前身である市観光協会が16年に行った写真コンテストに寄せられた作品なのだが、１年後、ずっと気にかけていた担当者が「こんな場所もある」と台湾からの観光客を案内したところ、「非日常的な写真が撮れる」と大好評。ＳＮＳを駆使して情報発信に力を入れたことも奏功し、爆発的な人気につながった。

周辺では今、見慣れた町の風景を「インスタ映え」スポットとして売り出そうという動きが活発だ。浜から車で10分ほどの場所にある高屋神社（観音寺市）は、標高４０４㍍の山頂の鳥居を、市街地と瀬戸内海が一望できる「天空の鳥居」と名付けてＰＲ。四国霊場札所・雲辺寺近くの公園には「天空のブランコ」「天空のフォトフレーム」がお目見えし、迫力満点の大パノラマが若者や家族連れの遊び心や創造力をくすぐっている。

思えば、自然が織り成す風景に癒やされながらの四国遍路も、のどかな景色の中で味わう讃岐うどん店巡りも、お遍路さんや観光客にとっては非日常の世界の体験なのだ。何げない風景の中から、いかに非日常を見いだすかが、これからの観光振興の鍵を握る。「インスタ映え」を切り口に、身近な場所を観光地に変えた父母ケ浜の取り組みに、デジタル時代の可能性を見た思いがする。

四国新聞社　東京支社編集部長　山下和彦

「インスタ映え」スポットとしてＳＮＳで人気となった香川県三豊市の父母ケ浜（三豊市観光交流局提供）

「天空の鳥居」として売り出し中の同県観音寺市の高屋神社の鳥居